316.82-Se19ウ
1200500735292

複写

青年亜細亜叢書第一

印度獨立運動史概觀

青年亜細亜同盟編

始

131

316.82
SE19

933
25

納本

青年亞細亞叢書 第一

印度獨立運動史概觀

附 青年亞細亞同盟綱領・構成・機構・運動及事業・宣言

青年亞細亞同盟編

316.82
SE19

印度獨立運動史概觀

附 青年亞細亞同盟綱領・構成・機構・運動及事業・宣言

933
325

前がき

青年亞細亞同盟は昭和十二年十一月發足以來在日印度青年同志と共に今日まで首尾一貫して亞細亞解放運動――就中印度問題に努力の大半を捧げて來た。而して現在、わが青年亞細亞同盟同志五名盤谷にありて、印度獨立運動へ挺身しつゝある。憶へば感慨無量なるものがある。

印度の血は日本の肺臓に繫り、日本の呼吸(いきぶき)は印度の運命を左右しつゝある。

謂ふ迄もなく印度問題こそ大東亞戰爭の關鍵にして、世界維新戰の天目山である。大亞細亞恢弘の成否も、アングロサクソン國家の存亡も實にこの一點に決するといふも過言ではない。印度問題は今日既に日本自體の問題である。

然るにわが國民の印度に對する理解乃至知識に至つては洵に寥々索莫たるの憾が深い。支那事變に鑑る迄もなく無理解無知識の行動こそ百年の汚點を歴史に刻むものだ。隣邦印度の歴史と現實の運命を國民的規模に於て把握することこそ、現下日本の喫緊の時務であらねばならぬ。而してこの印度の血と魂の把握は、實に一世紀半の永きに亘る民族苦鬪の連續を以て綴れる深刻酷烈なる獨立運動史を通じてのみ始めて可能だ。

本叢書は斯る要請の一端を滿さんとして上梓されたものである。複雜極まる一世紀半に亘る印度革

命史を、誰にでも急速簡便に理解出來るやうに、年代を逐つてその要點のみを列擧した――いはば印度獨立運動史一覽表ともいふべきものである。だが、その精神と方向だけは誤りなきを期したつもりである。

卷末にわれわれ青年亞細亞同盟の運動を理解して頂く爲に、本同盟の綱領、構成、宣言、運動及び事業等を添附しておいた。大方識者の御賛同と絶大なる御支援を懇願するものである。

尙本書の執筆には同志田中正明君が之に當つた。

昭和十七年八月廿日

青年亞細亞同盟調査部

印度獨立運動史概觀

目次

一、宗教復興期……一
――啓蒙的思想運動期――
二、セポイ叛亂と文藝復興……四
――英國の驚くべき暴政の數々――
三、個人的テロ時代（政治的覺醒期）……一〇
――日露戰爭の影響と第一次歐洲大戰まで――
四、集團的叛亂時代……一五
――第一次歐洲大戰と革命黨の活躍――
五、國民運動第一期……一九
――ガンディの出現とアムリッツァル事件――
六、國民運動最高潮期……二三
――ラホール會議の成功――
七、英印妥協時代……二六
――第一次、第二次、第三次圓卓會議――

八、國民會議派の凋落……三一
——新憲法發布と第一回州議會の選擧——
九、第二次世界大戰と印度……三五
——ミュンヘン會議より大東亞戰爭勃發まで——
一〇、大東亞戰爭と印度……四〇
——クリップスの失敗とボンベイ大會——
青年亞細亞同盟
綱領……四五
構成……四五
機構……四五
運動及事業……四六
大東亞戰爭に際しての宣言……四八
委員名……五〇

△如何なる國に於ける民族運動、革命運動も啓蒙的思想運動から始まつてゐる。印度の獨立運動史も亦この例に漏れない。

△然かも年代的に見て、わが國明治御維新の端緒を開き、その根本思想をなした山縣大貳、高山彦九郎、賴山陽等勤皇思想家の簇出した時代に、印度最初の注目すべき啓蒙的思想運動がラーヂア・ラーム・モハン・ロイ(一七七二—一八三三)によつて始められたといふことは興味ある事實である。

△彼は信仰厚きブラーミンの家系に生れたが、回教、佛教、キリスト教の總てに亘つて宗教思想の探究に努めた後、一八二八年五十七歳の時、自由なる信仰家の集會としてブラーマ協會(サマジ)を建設して、印度の宗教思想、社會生活に對し改革の聲を擧げたのである。

△印度民族運動の特徴は、性格的には宗教改革運動として出發し、政治運動へと移行した點にある。

△モハン・ロイはイギリス・プロテスタント布教團の侵入によつて危機に臨したヒンズー教の復興を目指したが、然し彼の意圖は英印文化の綜合を一歩もでなかつた。

△一八五七年カルカッタ、ボムベイ、マドラスの三大學がロンドン大學の規定に範をとつて設立され

一、宗教復興期

——啓蒙的思想運動期——

教育普及の端緒をなしたが、然し英國の印度統治政策の一翼として設立されたこれ等の大學は社會科學、自然科學の分野を缺き、當時の印度知識階級はミル、スペンサー、マコーレイ等の自由主義立憲政治理論の忠實なる祖述家に過ぎなかつた。

△この風潮に反擊して起つたのが、ロイの死後ブラーマ教會（サマジ）を盛り上げたラビンドラ・ナート・タゴールである。

△タゴールの思想はブラーマ協會の精神をキリスト教から獨立せしめた點で教祖ロイを超えてゐる。即ち彼はヴェダ及びウパニシアット哲學に基く信仰理念を確立して、純印度思想の廓清に努力した。

△チャンドラ・セン（一八三八―一八八四）は最初タゴールの運動に參加したが、彼自身の革命的性格は協調的なタゴールと合はず、一八六五年獨立してインド・ブラーマ協會（サマジ）を組織して進一歩を劃した點に於て注目すべきである。

△彼は印度教に於ける形式的典禮主義、偶像崇拜、階級制度、神託迷信等を打破して純印度思想の復興を叫び、而もそれをキリスト教から獨立せしめたのみならず、印度教を世界に比類なき卓越せる思想として唱導した。

△この思想を更に強化普遍せしめたのがスワーミ・ダヤナンド・サラスワティ（一八二四―一八八三）である。

△彼こそ實に西歐思想に染まぬ純粹なる印度教修道者で、一八七三年アーリア協會（サマジ）を創設し、ヴェダこそ宇宙神の最高啓示であり、人類は世界に比類なきこの自由なる印度古代精神に還れと主張した。

△彼のこの高邁なる民族理想主義は多數の勇敢なる革命的實踐運動者を生んだ。ララ・ラヂパット・ライ、クリシュナ・パル等はその逸材である。

△ラーマ・クリシュナ（一八三六―一八八六）は最も廣い意味での印度教を、宇宙精神の最高なる宗教としてその再建に努力した偉大なる思想的先驅者である。

△彼は印度教は古代以來の全印度思想の綜合物であり、窮極に於ては最高一神論によつて統合されると絶叫した。彼の思想は最も民衆的であると同時に思索深き哲人として時代の敬仰を一身に集めた。彼は印度教に現代的意義付と自意識による活力、復興力を賦與した。

△彼の忠實なる後繼者として印度の聖パウロといはれるスワーミ・ヴィヴェカナンダ（一八六二―一九〇二）が現はれた。

△彼は一八九三年シカゴに於ける宗教會議に出席し、一躍その名を世界に轟かせ、世界の宗教界に大旋風を捲き起した。彼は「鎧を着た僧侶戰士」とまでいはれ、ヒンズー教を國際的に接觸せしめた最初の人であり、同時に印度教的な民族精神の炬火を掲げ、印度民族運動の思想的根據を築いた。

△從來の自由主義政治運動に眞の民族主義を導入した最初の政治家ともいふべき哲學者アラビンダ・

ゴーシュ（一八七二―一九一五）の强烈なる愛國思想は、ラーマ・クリシュナ、ヴィヴェカナンダの最も優れた祖述であり實踐であつた。（次項參照）

△かくてヒンズー教の復興が愛國精神と結びつき、キリスト教と西歐文化に對抗して戰を開始し、新印度國家建設への情熱を高めた。而して遂に「完全獨立（スワラジ）とは私の生れながらにして持つ權利である」とバル・ガンガ・ダル・チラックをして喝破せしむるに至つたのである。

△かくして宗教復興運動乃至社會改良運動は一轉して民族運動、愛國運動となつて燃え上り、燃え續けて行くのである。

二、セポイ叛亂と文藝復興

――英國の驚くべき暴政の數々――

△英國の虎よりも恐ろしき苛烈なる壓政と、頻發する飢饉と、印度兵に對する逆待とが原因して、印度の形勢甚だ逼迫したる時、印度傭兵（セポイ）の間に一風說が傳染病の如く傳播された。

△有名なるダム・ダム兵工廠に於て作製せる小銃彈に、回教徒の忌み嫌ふ豚の油、及び印度教徒の尊崇する牛を屠殺して得た牛油が塗布され、彼等の身體精神を汚瀆する企圖があるとの風評が傳はつたのである。

△かくて一八五七年一月遂にバラックプールの聯隊に於て印度兵が蜂起し、兵營は燒き拂はれ、英人士官は殺戮されて大暴動化した。

△二月三月と各地印度兵の反抗運動は益々頻發擴大し、オウドに於ても叛亂が起き、五月にはメール・トの傭兵が公然と叛亂を起し、狂瀾の勢を以て英國兵駐屯所に進み、英人を悉く殺害した。更に火の手はデリーに移つた。

△叛亂軍の指導的立場に立てるジャンシンの女王及び猛將タンチア・トピ斃れ、遂にさしもの叛亂軍も鎭壓された。時に一八五九年四月であつた。

△この大叛亂が鎭壓された後英國官憲によつて示された毒々しいまでの殘忍さと、氣狂じみた復讐欲とは、今日に至るまで英國人といふ名を印度人の憎惡の的たらしめてゐる。卽ち人間の想像を絕する凡ゆる慘虐、絞刑、拷問、凌辱が加へられ、事件に何等關係なき老人、婦女子に至るまで殺戮された。

△「彼は由緒古く富み且つ大なる一國家を足下に蹂躙して之を荒凉たる沙漠に變ぜしめた。」これはエバマンド・バークが印度の劫掠者ワレン・ヘスチングを彈劾した有名な言葉であるが、英國が印度になしたる萬惡はこの一語につきる。

△印度が英國の手に歸して以來、飢饉の度數が夥しく增加した。

一七二九年より一八〇二年に至る七十四年間に　十六回

一八〇三年より一八六五年に至る六十三年間に　十七回
一八六六年より一九〇〇年に至る三十五年間に　五十七回
而して一八九一年より一九〇〇年に至る僅か十年間に飢饉の爲に餓死せる老幼男女實に二千萬人の多數に上る。

△之に對しダット博士は「印度の飢饉は英國への莫大なる貢賦、印度に對する英國の帝國主義及び印度商工業の破壞によつて生じた印度人民の、極度の憫然に堪へざる恐るべき貧困に原因する」といつてゐる。

△英人リリー氏はその著「印度とその問題」の中にかう書いてゐる「ベンガル一州稔れば印度二年間の食糧を賄ひ得るに拘らず、ヴィクトリア女王が位に卽かれた年一年間だけで南部に五百萬人の餓死者があつた。ベラリー地方では一八七六年から一八七七年にかけて飢饉で全人口の四分の一が亡くなつた。余が毎朝馬に乘つて役所に出かけると、路上には幾百幾千の死骸が累々として野犬と兀鷹の貪り食ふに任せられてゐた」……と

△印度人の平均年齢は二十三歳である。印度人百人中五十人までは男子は十二歳未滿で、女子は十三歳未滿で死亡してゐる。

△印度に何等の衞生機關、社會機關なく、貧困にして不健康のためペスト、マラリア、コレラ、チフス等の傳染病によつて斃れる者は年々夥しき數に上つてゐる。

△一九〇三年から一九一二年の十年間に、實に五百七十萬人がペストの爲に斃れ、一九〇七年の一ケ年間だけで百萬人以上がペストで死んでゐる。他の傳染病もこれと大同小異で、近代人の常識を絕する數が擧げられてゐる。

△英國の統治前までは、印度人の文字あるもの四十パーセント乃至六十パーセントであつた。またベンガル一州だけで小學校の數八千以上を數へた、と權威ある印度研究家は發表してゐるが、今日の狀況はどうか。

△現在印度人にして讀み書の出來得るものは僅かに八パーセントに過ぎず、婦人に至つては實に二パーセントの少數である。

△「印度人が科學的才能が無いのでは斷じてない、全印度に亘つて唯の一個處の工業專門學校もなく、印度の大學に於いて化學及び科學に關する課目が無いのみか、日本語、ドイツ語、イタリア語さへ學ばしめやうとしてゐないではないか」……とは革命家ラヂバット・ライの言葉である。

△かくて英國は印度人よりその知能を奪ひ、武器を奪ひ、生命を奪ひ、富源を搾り、文化と傳統と社會組織を目茶苦茶に破壞し去り、遂に印度をして今日見るが如き荒廢たる砂漠に變ぜしめたのだ。

△前印度總督カーゾン卿の調査によれば、一九〇五年の印度人の收入は平均一人一日約五錢、一年約

二十圓に過ぎないと。またウイリアム・ディグビー氏の計算によれば、右の半額、即ち一日約二錢五厘、一年十圓の收入に過ぎないと報告してゐる。然かもこの一日二錢五厘の收入しかない印度人に英國は徵稅をしてゐるのである。

△アーノルド・ラプトン氏は印度農民の狀況に就て次の如く述べてゐる。「農民の家は泥で作られ草をもつて葺き、窓も扉もない。彼は腰に一片の布をつけてゐるだけだ。飲酒、喫煙もしなければ、新聞も讀まない。彼等は一日一回の食事で滿足しなければならず、常に飢餓に面してゐなければならぬ。寒冷の季節に毛布又は防寒の衣が無いため、ランプも無い部室で彼等は悄然と暗黑の裡に坐して寒さに堪へねばならぬ。」

△都市勞働者の生活はもつと慘めである。或る米人が「ヨークシャの豚でもこれ以上の生活をしてゐる」といはしめた程で、暗い穴藏のやうな一室に五家族も同居してゐる例は決して稀ではない。

△かゝる廢墟の中から復興印度の精神は芽生えた。飢餓と貧困と蹂躙に抗して、眞先に芽生えたのが宗教的覺醒であつたことは前述したが、宗教的覺醒が文藝、哲學の復興となり、愛國的民族的情熱を呼び覺して國民運動へと轉化されて行つたといふこの過程は、印度革命史の大なる特徵であるといふことを銘記しなければならぬ。

△散文に於けるバンキム・チンドラ・チャッテルジ、韻文に於けるラビンドラ・ナート・タゴール、而して繪畫に於けるアバニンドラ・ナート・タゴール(詩聖の從兄弟)及びその兄たるガガネンドラ・ナート・タゴールは、それ〴〵文藝を通して偉大なる印度的光彩を放つた復興期の先覺である。

△而して哲學の面に於てはアラビンダ・ゴーシュの出現によつて、印度はこゝにはじめて眞個の國民的哲學者を得た。

△革命的精神を印度青年に養つた點に於て彼ほど偉大なりし存在はない。宗教、文學、藝術の諸方面に於て復興したる印度は、哲學者アラビンダ・ゴーシュによつて明瞭にその方向が示された。

△これより先一八八五年英人ヒュームによつて國民會議が創設されたが、これは當時漸く險惡化さんとしつゝあつた印度知識人の氣分を和げ、英印間の親善協調を目的としたもので、雄辯會的社交倶樂部の埒を一歩も出なかつた。

△英人ヒュームの目的は、印度の民族運動を英國流に指導するにあつた。當初會議派の印度人がその子弟を競つて英國に留學せしめたのを見ても、その一端を察知することが出來る。

△ヒュームに次いでゴカールが指導者となつたが、彼は飽くまで自由主義信奉者で、同情ある英人の協力を求めることに努力し、印度が英帝國内の一自治領たることに滿足してゐた。

△國民會議派の性格の中に今なほこの考へが相應根深く滲透してゐる事實を閑却してはならぬ。だが宗教復興より文藝復興へ、文藝復興より政治的覺醒へと漸進的乍ら印度は成長して行つたのである。

三、個人的テロ時代（政治的覺醒期）

——日露戰爭の影響と第一次歐洲大戰まで——

△一九〇五年日露戰爭による白人帝國主義に對する亞細亞民族日本の輝しき勝利の影響は、印度人に政治的自覺を促した。これより反英獨立の政治思想は全印に漲るに至つたのである。

△かくて印度の政治的獨立運動の第一頁は、實に日露戰爭に於ける日本の勝利の日よりはじまつたのである。而して今次大東亞戰爭の完勝によつて、印度解放の終幕を見んとしつゝあるのだ。日本と印度の運命的因緣亦思ふべしである。

△時恰もカーゾン總督によつてベンガル分割令がベンガルに於ける民族運動を弱める目的を以て發布せられた。このカーゾンの彈壓政策は印度人の間に政治的不滿を增大せしめた。然かも同年は全印度にペストが暴威を振ひ、バンジャブ州のみにても六十余萬の死亡者を簇出し、飢餓による死亡者も夥しき數にのぼつた。

△この印度の甚しき困窮を尻目に、カーゾン總督によつて播かれたバンジャブ州に於ける地租徵收の爭ひが導火線となつて、無數の秘密革命結社が結成された。

△先づ最初のテロ時代がはじまつた。これを指導したのがバル・ガンガ・ダル・チラックである。

△チロルが「印度不安の父」と呼べる偉大なる革命的政治家にして古典學者たるチラックは、正統ヒンズー教徒と、溫和派に不滿を抱く青年達をその背景として、ベンガルに力を持つた。

△彼は十七世紀回教徒の軍隊を粉碎してマラタ帝國の建設者となれるマーラットの戰士シヴァジを崇拜し、印度青年に國民的自覺を促し、尙武剛健の精神を鼓吹して「汝等劒と楯とを執つて戰へ！ 祖國の光榮を護らんが爲、我等は生命を賭すを辭せず」と叫び、象の神ガネッシュを民族主義者の團結力の表徵とした。

△彼はプーナのペスト騷動に於て英官憲を殺害し、徵役八ヶ月に處せられた。

△實に彼こそ「印度が獨立すべき條件に達した」と叫んだ最初の暴力革命家である。

△チラックの影響を受けたベンガル革命青年は、バンヂャブの愛國者と相呼應して隨所に血腥き雨を降らした。

△血に飢えた女神カリの禮拜が、印度民衆の間に廣まつていつた。

△テロリズム橫行し、英貨排斥がはじまり、印度產業資本家の援助を仰いで、暴力革命派の勢力は全印に燃えあがつた。

△一九〇六年にはマニクトラー爆彈事件なるものが起つた。卽ちマニクトラーの籔の中に火藥製造所を造り、その爆彈が革命青年の手に配られた。二青年がカルカッタ知事を襲つたが誤つて他の英官憲

を斃し、裏切者ゴセインは獄中の同志に殺され、逮捕した一巡査も殺された。これが印度の最初の組織的革命テロ事件である。

△一九〇九年ベンガル州長官サー・クレーザーは三度暗殺の厄に遭つた。ミートン總督もアーメダバッドに於て爆彈を投ぜられた。

△一九〇七年セポイ叛亂五十周年記念日を期してパンヂャブ州に政治的不安增大し、ラホールの志士ラヂパット・ライ、アヂート・シングは暴徒の主謀者なりとして捕へられ、裁判に付することなくビルマに護送された。

△この勢を怖れた英國政府は、この年その宥和政策として所謂「モーレー・ミント改革案」を發布し、中央並に地方の立法參事會に對する印度人の任命といふ劃期的改革を斷行した。

△だがこの英國政府の宥和手段も、その反動的性格を持つものとして却つて印度の反英輿論を刺戟する結果を招くに過ぎなかつた。殊に印度法制史上に於ける英國の印・回兩教徒の分離政策の最初の現れとして、同案に對して痛烈なる反擊の矢が放たれた。

△かくてテロリズムは終焉すべくもなく、遂にロンドンに波及した。印度事務大臣モーレー卿の秘書ウイリヤム・ワイリーがサバルカル教授の弟子パンジャブ生れの一學生マダン・ラル・ディグラによつて暗殺された。

△「我は母國のために賤しき一命を捨てるの光榮を有す」とのディグラの言葉こそ、當時の印度革命青年の氣魄を代表したものであつた。

△更に同年クシナ及びダッカに於て知事と裁判官が暗殺された。バンド・マターラン紙の主幹たるカマ女史によつて武器が送られたことが判明し一大センセイションを捲き起した。

△指導者サバルカルはこの事件に連坐し、終身刑を受けてアンダマンに流された。

△茲に於て英國は、一九一一年十二月ジョージ五世の戴冠式を印度に於て莊嚴に行ひ、印度人を威壓すると同時に、當日國王の名に於て、先のベンガル分割令の取消を行ひ、中央政府をカルカッタよりデリーに遷都すべき旨を宣言した。

△一九一二年十二月、ハーディング卿がデリー初代總督として新都に入都せんとした時、爆彈が投ぜられ、從者數名は斃れ、總督は負傷した。

△この事件の主腦者こそ、實に中村屋の女婿ラス・ビハリ・ボースその人であつた。

△これより先、一九〇七年の地租徵收の爭ひが導火線となり、この英國の暴政に對抗するため、ラホール市に始めての大規模なる秘密革命結社が成立した。即ちベンガルの大敎育家サフイ・アムバ・バルシャット(Saffy Amba Parshad)を主班とする「母國印度黨」がこれである。

△この結社の首腦者こそ、世界大戰前後の暴力革命を指導した主要人物である。その名を擧げれば、

ハル・ダヤル　(Har Dayar)
ブハイ・パルマ・ナンド　(Bhei Parma Nand)
ララ・ラヂパット・ライ　(Lala Lajpat Rai)
アヂート・シング(兄)　(Ajit Singh)
キシャン・シング(弟)　(Kishan Singh)
ジャガート・ラム　(Jagat Ram)
ラーム・チャンドラ　(Ram Chandra)
ゴーダ・ラム　(Goda Ram)

△この秘密結社はやがて英國官憲の探知するところとなり、一同袂を連ねて米國サンフランシスコに亡命した。

△一九一三年九月これ等指導者達によりロスアンゼルスのメトロポール・ホテルに於て印度革命黨(Hindustan Revolution Party)が結成せられた。機關誌印度大叛亂(Hindustan Gadar)を發刊し、幾多の小冊子と共に嚴重なる英官憲の目を潛つて巧みに印度に密送され、激烈なる革命思想を鼓吹した。

△彼等はドイツ政府と緊密なる連絡を保ち、數百萬ルピーの資金を集め、武器彈藥等を入手して、時機の到來を待つた。

△かゝる時第一次歐洲大戰は勃發したのである。

四、集團的叛亂時代

——第一次歐洲大戰と革命黨の活躍——

△一九一四年歐洲大戰勃發するや、在外印度革命志士たちは千載一遇の好機到來せりとなし、或は米國より、或はカナダより、或は支那より陸續として本國に密行した。

△印度よりカナダへの移住民を積んだ日本汽船駒形丸がカナダ官憲により入國を拒まれ、再び同船によつて歸國するの止むなきに至つた。此の機會を捕へ、印度志士は好機逸すべからずとなして被送還者を裝つてコリア號及び駒形丸に分乘した。

△コリア號は香港に到着したが、同地の印度兵に革命思想を鼓吹したため、英國官憲は香港より一行を數十班に分ち、一班二十名とし、各班各別の便船で歸印すべき旨を命令した。彼等は陸路印度に潛入せんと企てゝ果さず、八方運動の末土佐丸で歸印した。

△一方駒形丸は、香港經由カルカッタに送還された三百名(此のうち革命黨員二百余名)はカルカッタ下流十五哩のバンチ・バヂに上陸せしめられ、バンジャブ州への直通列車への移乘を强制された。彼等の自由行動、わけてもカルカッタへの潛行を怖れた英國官憲は、警察力を以て彼等の行動を拘束せ

んとした。

△彼等は密かに携帶せる武器を執つて警察官に抵抗し、兩者間に激しき衝突を生じ、數十名の死傷者を出した。世にこれを駒形丸事件といふ。時に一九一四年九月二十九日であつた。

△これ等の激昂せる歸還者の大多數が、バンジャブに歸つた頃は、恰も革命黨の志士が盛に排英獨立思想の秘密傳道中であつたので、彼等の多くは相率ゐて革命黨に投じ、革命の氣勢頓に上つた。

△ラホール陰謀事件はかくして起つた。而してその策源地はサンフランシスコに本部を有するハル・ダヤルを首班とする印度革命黨であつた。

△青年學生が動員せられ、バンジャブ州農民の九割までが革命黨の同情者となつた。

△革命の激文が謄寫・筆寫によつて複製せられ、密かに軍隊内に配布せられ、或者は血緣ある雇兵に接近して叛亂の火を點じて廻つた。

△かくてラホール騎兵第二十三聯隊、バンジャブ歩兵第二十六聯隊動き、一九一四年十一月二十七日を期しミアン・ミールの武器庫を襲擊し、一隊はジャール・サヒブに急進して革命黨の率ゐる農民兵の一團と合して旗を擧げんとしたが、英官憲の知るところとなり未遂に終つた。更に翌一九一五年二月十一日を期して決行せんとし、これ亦英國の好妙なるスパイの爲未然に發覺するところとなつた。

△直ちに英國官憲は印度軍の武裝を解除し、ラホール附近の英國軍隊を動員し、四ヶ所の革命黨秘密

本部を襲擊した。黨員と官憲との間に激烈なる流血の戰ひが演ぜられた。

△かくて二月二十日より二十四日に亘つて大量檢擧が行はれ、處刑八百名、逮捕せられたる者實に四千の多數に上つた。世にいふ第一次ラホール叛亂が之である。

△第二次ラホール叛亂は、一九一六年二月勃發し、逮捕せられたるもの二百五十名の多數に達した。

△尙この外革命黨はドイツと緊密なる連繫を保ち、多量の武器、彈藥、小冊子、資金を印度へ送らんがためマブリック號(六五〇噸の油槽船)を購入して出港したが、米國海軍に捕へられて果さなかつた。

(尙ドイツ政府より革命黨員に渡された小銃の總數は七萬五千挺といはれる)

△第二次ラホール事件と前後してベナレス陰謀事件が起つたが、この指導者こそラス・ビハリ・ボースであつた。然るにこれ亦官憲の探知するところとなり、同志の逮捕せられるもの二百名、處刑者數十名を出した。(ボースはこの直後、日本郵船讃岐丸にてタゴールの甥と稱して日本へ亡命した。)

△一九一五年一月、シンガポール駐屯の印度兵が革命黨の誘致に應じて蹶起した。

△續いて同年春ハルナム・シングを首領とする六名の志士によつてマンダレーに叛亂事件勃發したが事前發覺し、逮捕せられたもの百名、死刑者七名、終身刑五名、以下十數名の處刑者を出した。

△かくて各處に蹶起した集團的暴力革命は事毎に失敗を重ね、一九一八年十一月歐洲大戰亦ドイツの屈伏によつて終焉してしまつた。

△大戰中印度が海外に派遣した兵士の總數は百二十一萬人を越え、二十八萬の犧牲者を出し、三億五百萬磅(五十億圓)が英國に献納された。

△その結果與へられたものは何か？　自治にもあらず、獨立にもあらずして、實に鐵鎖と血の彈壓であつた。アムリッツアルの虐殺とローラット法案が即ちこれである。

△だが百萬の印度兵が血の滲む新しい經驗を提げて印度へ歸つて來た。その結果として從來の英國模倣と自由主義思想が拂拭された。

△英國駐屯軍及び英國市民の大多數が印度を離れて歸英したため、印度人は事實上支配的地位を代行した。その結果民族自決の精神が高まり、世界的風潮と相俟つて民族運動は一段の進歩を遂げた。殊に前記革命黨の血を以て敎へた敎訓は大戰後の印度民衆に非常なる影響を及ぼした。

△併も印度工業は躍進的發展を遂げ、印度民族資本が世界市場に頭角を現はして來た。(印度は一九一五年より一九三〇年まで毎年八億ルピー以上の出超であつた。)

△從來親英的態度を持してゐた回敎徒聯盟までがカリファ問題を提げて、英國の僞瞞を痛論し、國民會議と歩調を合せて獨立運動に乘り出してきた。

△この印度の大戰後の情勢と澎湃たる風潮に對し、英國は如何なる態度に出たか。

五、國民運動第一期

——ガンデイの出現とアムリッツアル事件——

△一九一七年印度國民運動の激化を怖れた英國は、印度事務大臣モンタギューと總督スチムスフオードをして調査報告を行はしめた。

△一九一九年この報告に基き所謂有名なるモンタギュー・スチムスフオード改革案なるものが出來上つた。これが現行統治法の基礎をなすものである。その特徴は

1、從來の極端なる中央集權政策を緩和し、漸次地方分權政策へ移行せんとしたこと。

2、中央立法議會並に州立法議會に於ける選擧制度を廢して直接選擧制に改め、且つ民選議員の增加を計つたこと。

3、總督府行政參事會に印度人參事會員を增加したこと。

4、各州政府にダイヤキー制を設けたこと。

(ダイヤキー制とは各州政府の行政を「保留事項」と「委任事項」とに分つ二重政治で、委任事項のみ立法議會が責任を負ひ、軍事、財政等の重要事項に關しては英人の絶對的權限下におく)

△而して右條例實施後滿十年を經過したる後、印度事務大臣は上下兩院の同意を經て印度統治委員會

を設け、その審議の結果に徴して印度に自治政府を樹立すべきことを公約したものである。

△印度人がかくの如き僞瞞的改革に同意する筈がない。直に闘爭が開始された。

△時恰も英國政府はローラット判事外五名を委員として印度に送り、民族運動の徹底的彈壓を目的とする所謂ローラット法なる天下無類の暴法を發布した。

△即ち平時に於ける戒嚴令を法文化せるもので、嫌疑ある印度人は令狀なしに逮捕し、且つ審理を經ずして不定期監禁を爲すを得、被告には辯護士、證人を認めず、といふ古今その例を見ざる惡法である。（一九一九年發布）

△ガンディはこの惡法に對して二十四時間絶食と罷業とボイコットを旨令すると共に全印度各地に集會を催してローラット法反對の決議をなせと命令した。

△この結果として同年四月十三日世にも悲慘なるアムリッツアル事件が勃發した。

△これよりさき暴政反對の國民大會が同市に於てイスラムカン氏、サチア・パル、キチリュ兩博士指導の下に屢々開催され、その度に英國官憲と衝突を繰り返し、多くの犧牲者を出したが、四月十三日印度敎徒の新年祝賀式に參列した二萬の群集に對してダイヤー將軍は解散命令を發することなく、何等の豫告もなく發砲を命じたのである。

△射彈數實に一千七百發、英當局の發表にても即死者三百七十名、負傷者二千名を出し、官憲は一人の負傷者を病院へ運ぶこともしなかつたのである。

△惡鬼ダイヤー將軍に對して英國軍法會議は、印度の危機を救つた英雄であると賞讃した。ロンドン市民は彼に十五萬弗を贈つてその武勇を讃へた。

△その翌日附近に蜂起した革命軍に對し空爆が行はれ、官憲による拷問、虐殺が行はれた。印度四億民衆の憤怒は天を衝いた。

△ガンディはアムリッツアル事件に憤激して英國から貰つたメダルを突き返し「惡魔」と罵つた。

△血みどろな反英運動は愈々全印に漲り、これに對し英國は氣狂ひの如き彈壓を以て臨んだ。街頭到る所に笞刑場が設けられ、印度婦女子は凌辱され、印度人は道を歩くに匍匐すべしとの命令が發せられ、英國兵に對しては地べたに顔をすりつけて敬禮せよと强制せられた。我々の殆ど信じられないやうな非道殘虐が白晝公然と到る處に行はれた。

△かつて南阿に於て成功したガンディの「眞理（サッチャグラハ）の把持」を指導精神とする第一次非暴力運動が展開されたのは實にこの時のことである

△一九二一年十二月英國皇太子（プリンス・オブ・ウエールス）の訪印を期して全印一齊に弔旗が揭げられ、廣汎な暴動が印度を蹂り、民衆と官憲の衝突を見、印度は血を以て英國の不當なる法案の撤回を迫つた。

1、英國からの輸入綿布を山と積んで、ガンデイ自らこれに火を放つた。（一九二三年七月三十日）

2、國產奬勵運動が行はれ、各人は紡車を廻し、印度綿糸布の自給自足を目指した。
3、教師、官吏はその職を辭し、學生は通學を停止した。
4、立法議會がボイコットされた。
5、一切の納稅は拒否された。

△同年十二月にはC・R・ダス、ラヂパット・バイ、チャンドラ・ボース、ジャワハルラル・ネールをはじめ會議派の指導者は悉く逮捕、投獄せられた。この第一次非暴力運動によつて投獄された印度人の數は實に三萬人を突破した。

△遂にガンデイも投獄され、懲役六年の判決を下された。(一ヶ年にて釋放さる)

△C・Rダスとモテイラル・ネールはガンデイの運動方針に反對して自治黨を組織した。

△一九二七年さきのモンタギュー・スチムスフオード法による十ヶ年間の試政期に於ける印度の政情を調査すべく、檢事總長サー・ジョン・サイモンを委員長とする英人七名からなる所謂サイモン委員會なるものが派遣された。

△この委員會に印度人が一名も加へられてゐないことは、印度國民主義者を極端に憤激せしめた。

△全印弔旗を揭げてこれを迎へ、各地に於て「サイモン歸れ」(Simon go back)のボイコット示威運動が展開された。

△これが暴風的反響を呼び、再びバンジャブを中心としてテロ時代が來た。

△一九二七年マドラスに於て第四十二回印度國民會議が開催され、サイモン委員會に對比して先づ急進派分子の指導下に「印度國民の目標は完全なる國民的獨立」にあるとなし、バンデイツト・モチラル・ネールを委員長とする憲法起草準備委員會を設けた。所謂ネール報告と稱するものが之である。

△この父モチラル・ネールの報告に現はれた軟弱なる自治領制の欲求を不可となし、その息ジャワハルラル・ネールとスバッシュ・ボースが反駁した。この大論爭をガンデイがとりもつた。

△一九二八年八月スバッシュ・ボースは蹶然起つて、急進派を率ゐて「獨立聯盟」Independence Leegue を創設し、完全獨立への一路を直進することゝなつた。

六、國民運動最高潮期

——ラホール會議の成功——

△ガンデイはモチラル・ネールの穩和的自治案が英國議會に於て否決されたる場合は、再び非協力運動を開始する旨の宣言を發し、漸くネール父子及びボースの妥協なり、カルカッタ會議を通過した。

△だが政府は妥協的なネールの自治案さへにべなく拒否した。

△一九二九年ラホールに於て、バガード・シングが治安維持法に反對し「我等の反對方法かくの如し」

と記せるパンフレットと共に、傍聽席より立法議會の議長めがけて爆彈を投じた。

△これに刺戟されて急進主義の傾向は一層強化され、一九二九年末ラホールに印度各地より續々と急進派青年志士參集し、パンジャブの回教徒急進派首領アブドル・ガファール・カンも亦赤シャツ黨員千名を率ゐて堂々と乘り込んで來た。

△かくて一九二九年十二月二十九日、革命運動の歴史的策源地ラホールに於て、劃期的な第四十四回印度國民會議が開かれたのである。

△この歴史的ラホール會議の議長にヤング・ネールが推された。

△明けて一九三〇年一月一日、ガンディによつて提示された左記の如き注目すべき强硬なる決議案が滿場一致を以て歡呼の中に採擇された。

1、獨立(スワラジ)を爾今完全獨立(プールナスワラジ)(Purna Swaraj)と定議す。

2、印度國民會議々員全員は中央並に州立法議會議員の職を辭し、之をボイコットすること。

3、納稅拒否並に非軍事的抗爭を開始する。

4、自治領の地位を標準として起草した前記のネール案を撤回する。

△かくて同會議は一月一日を以て盛會裡に終了し、一萬五千の大衆は大議場を取捲いてパンディ・マタラム(母國萬歳)の嵐の如き絶叫を以て應へた。

△印度人自らが中外に向つて完全獨立を宣したるこの一九三〇年のラール會議こそ、印度人にとり自由の第一年でなければならぬ。印度自らの政治史はこの年を以て新たに頁を起したといふべきで、莊嚴なる光景の内に幕は閉ぢ、印度獨立既に成つたかの感を與へた。

△「ラホール以後」といふ言葉が用ひられる所以である。これによつて印度國民運動は飛躍的進展を遂げ最高潮に達した。

△一九三〇年一月二十六日を以て獨立記念日とする旨の指令發せられ、海外の同胞も之を祝福した。

△同年三月二日ラホール會議の決議に於て非暴力運動の實行開始に關する一切を一任されたガンディは、總督に公開狀を差出して友誼的警告を與へた。

△卽ち鹽稅廢止、軍事費の半減、政治犯人の釋放等の九ケ條よりなる決議案を送つたが、總督はこれを拒否した。

△かくて鬪爭は開始された。三月十二日ガンディは七十九名の選拔義勇軍を率ゐてアーメダバットを出發し、行進三週間ダンティの海岸に向つて不服從進軍を起した。

△鹽專賣法の破棄となり、製鹽倉庫の破壞となつて、全印は沸き上つた。

△これに對し英國は突如非常彈壓法たるベンゴール條例を施行した。ガンディ始め會議派指導者の一齊檢擧となり、全印度を擧げて慘烈なる反英抗爭と彈壓の嵐が吹きまくつた。

△その數實に四萬八千六百の多數が投獄有罪を宣せられ、未決入獄を加ふれば實に十萬人といふ尨大なる人間が入獄したのである。

△この運動によつて、從來一部のみによる獨立運動が全印度にその意識を植ゑつけ、殊に隱遁生活を送る印度婦人までが街頭に進出したことは、ガンデイ出現の意義として注目すべきことである。

△而してこの時の英貨不買同盟による英國經濟界の打擊は極めて甚大で、爲に英國一部に妥協論が擡頭したこと、印度民衆が集團鬪爭に自信を持つたことは特筆大書すべきである。

七、英印妥協時代

——第一次圓卓會議——

△果然英國は妥協的態度に出た。エロヴダ獄中のガンデイとアーウイン總督との間に英印間の交渉が開始されたが、一切の政治犯人の速時釋放を條件とするガンデイの强硬態度に最初の交渉は決裂した。

△ガンデイは同じく獄中のネール父子、ナイズ女史等首腦者と協議し、九月五日英印間に何等の妥協の餘地なき旨の最後通牒を發し一切の妥協案を排除した。

△玆に於て第一次圓卓會議は遂に國民會議派の參加を見ずして、一九三〇年十一月十二日英京ロンドン上院に於て開催せられた。

△だが會議派の獄中から指命する强硬態度が圓卓會議の空氣を支配し、一般の豫想を裏切つて、各派少數民族の穩和派までが强硬演說を行つた。

△「聯邦構成小委員會」外九個の分科會に別れ印度聯邦制度に關する論議が活潑に繰り返されたが、印度國民の熱望する責任政治に關しては問題を將來に殘し、何等自治制審議の實は擧がらなかつた。

△穩和派は依然穩和派でしかなかつた。かくして有耶無耶のうちに第一次圓卓會議は終了した。

——第二次圓卓會議——

△一九三一年一月十五日アーウイン總督はガンデイ釋放を宣言し、同年二月十七日以來ガンデイとアーウインの間に商議が進められ、三月五日所謂「ガンデイ・アーウイン協定」若くは「デリー協定」なるものが成立した。

△卽ちガンデイの妥協案は

1、不服從運動の停止、2、政爭の武器としての英貨排擊の中止、3、次回圓卓會議出席

これに對し政府側は

1、海岸地方民の鹽の採取及び製造販賣を許す、2、外國製綿布及酒の賣店の見張を許す、3、暴力行爲なき政治犯人の釋放、4、彈壓法令の撤回。

△カラチに臨時國民會議開催され、所謂カラチ宣言によつて右妥協案の承認をなした。

△第二次圓卓會議はかくて正しくガンデイの屈服によつて一九三一年九月十四日ロンドンのセント・ジェームス宮殿に開催されたのである。

△半裸體、印度木綿の腰卷きをし飲料用の山羊をつれたガンデイと大法官サンキー卿の劇的對峙とはなつたのである。

△然し開會劈頭少數教徒問題、就中回教徒問題を中心とする各派代表割當問題で會議は俄然暗礁に乘り上げてしまつた。

△王侯、回教、不可觸賤民の各代表が互ひに相爭ひ、完全に印度の弱體と不統一を暴露したまゝで、一行は同年十二月五日ロンドンを出發して歸國してしまつた。

△卽ち結果としてガンデイの立場からいつてもこの會議は大失敗であつた。

△かくて英國はガンデイをロンドンに拉し去ることにより、不服從運動に水をかけ、國民會議派の戰鬪意識を鈍らせることに成功したのだ。

△英國の不誠意を痛感し、各派代表の度し難き宗教的利己主義と穩和派の八百長振りを目擊し、完全に英國の術中にある自己を見出した時は既におそかつた。

△英國の態度はガラリと變つた。新總督ウイリントンは印度の內兜を見透すや俄然不當なる彈壓法令

を矢次早に發した。

△これに對抗して不服從運動を再び開始せんとした時、國民會議派の指導者は全部獄に投ぜられてゐた。ガンデイも亦然り。

△「余のパンを得んと欲した手に石を與へられた」とガンデイは悲痛なる嘆聲を漏した。ガンデイの政治的生命は既に終れりとさへいはれた。

△だが一九二九年のラホール事件の首謀者であり、英人官憲サウンダースを暗殺し、立法議會に爆彈を投じた急進革命家バガード・シングの死刑が執行されるや、テロリズムに對する感激は最高潮に達し、青年は沸き上つた。

△ガンデイがカラチに到着した時、これ等青年は弔旗を以て之を迎へ、ガンデイ打倒を絕叫した。

△バテル、ボース、メータの共同聲明が發せられ、ガンデイの對英妥協を痛論した。

△二人の女學生が英人行政官スチヴンスを射殺したのもこの時であつた。

△アブドール・ガフアール・カンの率ゐる回教徒赤シヤツ黨々員が英國軍隊と衝突した。

△非常彈壓令が布かれ檢擧の嵐が吹きまくつた。

△國民會議派も負けてはゐなかつた。六十の鬪爭委員會を設け、一日一つづつ潰されても六十日を持ちこたへやうといふ悲壯なる戰法を以て戰つた。

△然し回教徒聯盟は之に協力せず、英國の分割政策に乗ぜられて少數割込運動を行つてゐた。
△かゝる狀勢下に第三次圓卓會議が開かれたのである。

――第三次圓卓會議――

△一九三二年十一月十七日よりロンドンに於て開催されたが、國民會議派も英國勞働黨も之が參加を拒否し、出席者は前二回の三分の一の四十三名であつた。
△印度國民の意志を蹂躙して第一次、第二次圓卓會議に附議された聯邦案に關する事項を確認した。
△印度國民は無關心の態度を以て僅かに之に報ひたに過ぎぬ。
△かくて三回に亘る圓卓會議によつて齎らされたるものは何か。印度聯邦憲法案要領なる白書が發表されたが、それはラホール會議に於ける完全獨立(プールナ・スワラジ)から相隔ること雲煙萬里、自治領としての地位からも遙に遠いものであつた。
△然かも英政府は國民會議派に對し非合法團體としての烙印を捺し、終始酷烈なる彈壓を以て臨んだため、印度は全く四分五列の狀態となり、こゝに國民會議派の衰退期を迎へねばならなかつた。

八、國民會議派の凋落

――新憲法發布と第一回州議會選擧――

△懷柔と彈壓は英國統治の常套手段である。圓卓會議といふ懷柔政策に成功するや、續いて峻烈なる彈壓の手が全印に伸びた。
△一九三三年の會議派大會は政府の彈壓裡に非合法のまゝカルカッタに開催し、時の議長バンデット・マラヴィは大會前に逮捕された。
△ガンディは不服從運動を中止し、休戰を申込んだが、英國はこの誠意を蹂躙し、今度は逆にこれを拒絶するのみか、緊急取締令を强化し、政治犯人の釋放も行はず、明かに前言を喰して傲然たる態度に出た。
△ガンディの總督會見の申込も拒否された。
△かくしてガンディは個人的不服從運動を以て之に臨んだ、然し彼の聲望既に地を拂ひ、數百名が獄につながれた上ガンディ自身も投獄された。彼は斷食を以て之に抗した。
△ガンディは遂に會議派が政府攻勢の前に屈服せる旨を發表し、明かに妥協的態度を表明した。
△ネールが愛妻カマラ危篤の報にデイラーダン刑務所より釋放され、十一日目に再びナイニの獄に送

られたのもこの時であつた。

△かくて會議派は涙を呑んで合法舞臺に轉じ、中央立法議會の選擧戰に臨むことゝなつたのである。

△さて、一方一九一九年以降幾多の問題を孕み、三回に亘る圓卓會議を經た印度聯邦制を規定せる新憲法の行衞はどうなつたか。

△一九三三年、圓卓會議の後を受けて英國當局は印度統治法に關する政府原案の起草に着手し、同年三月議會白書を發表した。

△更に兩院合同委員會構成せられ一ヶ年半に亘る審査の結果、一九三四年十一月報告書發表さる。

△かくて一九三五年十二月新憲法發布され、一九三七年四月一日を以て實施することゝなつた。

△全文四七八ヶ條よりなる、世界最長文の僞瞞的憲法で、その規定の原則は

1、印度聯邦制——總數六百に近い大小の王侯領と英領インドとを一括して印度聯邦を確立する（英領印度には知事を置く十一州と、政務長官を置く六地方とが含まれる）

2、州自治制——從來の半責任政治形態たる二重政治（ダイヤキー）制を廢止し、各州に完全自治制を布く（ダイヤキーとは州に於ける中央、地方の二頭政治制を云ふ）

3、ビルマを印度から分離する。

△この新憲法によつて聯邦並に各州に責任內閣が設けられ、聯邦には二院制の立法議會、州には州立

法議會が開設されるが、國防、外交、財政に關する事項はすべて總督の「留保部門」とされ、議會は關與するを許されない、また總督及び州知事には「特殊責任事項」の規定によつて廣汎なる獨裁的權限が附與されてゐる。

△一九一九年のモンタギュー・スチムスフォード改革案より一歩前進したるものとはいへ、依然として畸形兒である。ネールをして「奴隷の憲章」と罵倒せしめ、當時野黨のチャーチルをして「侏儒の作品」と嘆ぜしめたものである。

△一九三五年以後より今日までの獨立運動がこの憲法に對する反逆抗爭に終始されたと申しても過言でない。

△然かも新憲法は第一項目の印度聯邦制が主要項目であるに拘らず、全王侯領總人口の過半數の參加が條件となつてゐるため未だ實施されず、漸く一九四〇年四月から實施と決定したところ第二次歐洲大戰勃發となり英國は紛爭を懸念して無期延期を聲明した。從つて新憲法はビルマの分離と州自治制を見たのみで、他は實施されてゐないわけである。

△新憲法に則り一九三五年一月から二月にかけ、男二千五百萬、女百萬の有權者によつて第一回州議會總選擧が行はれた。

△その結果は國民會議派の大勝利となり、總議席千五百八十五のうち七百十五を占め、六州に於て絕

對多數を、三州に於て第一黨となつた。

△ネールは之等當選議員を全部デリーに集め「完全獨立への挺身」を宣誓せしめた。

△會議派が諸州の内閣を組織することは、獨立鬪爭の足並みを鈍らせるものとしてネール及び社會黨は猛然と反對したが、ガンデイの妥協論に引づられて遂に同年七月、八州に組閣したのである。

△かくて會議派各州大臣は「永遠の反對黨」から脱し爲政者として英國王への忠誠を餘儀なくされた。

△先づガンデイの指令によつて閣僚の減俸が斷行され、政治結社の禁止を解き、全官吏に印度國旗に對する敬禮を求め國歌を合唱せしめ幾多の改革に乘り出した。

△然し實際部面に於て彼等の統治は多くの破綻をきたした。禁酒令の失敗、勞働爭議調停法の失敗、ヒンズーとモスレムとハリージャンの反目等々が卽ちこれである。

△急進派の巨頭スバス・チャンドラ・ボースは痛烈に會議派幹部の妥協的態度を論難し、對英妥協反對、全國的不服從運動の開始を主張してガンデイ、ネールと對立し、會議派内部の左右兩派の抗爭は漸く激化し、急進派青年の擡頭となつた。

△一九三八年、一九三九年の二回に亙り彼が議長に選ばれたのもこの間の事情を物語るものである、彼は議長を辭するや、會議派急進分子を糾合して前衛(フォワード)ブロックを結成した。

△更に正統派の一團も會議派の軟弱に反對し、マラヴイヤの下にナショナリスト黨を組織して、ガンデイに對する不滿の意志を表示した。

△かくてガンデイはボンベイ大會に於て隱退聲明を發し、不可觸賤民(ハリージャン)と農村問題に沒頭する旨を明かにし、表面より手を引いてしまつた。

九、第二次世界大戰と印度

——ミユンヘン會議より大東亞戰爭勃發まで——

△一九三九年三月ミユンヘン會議以後獨英の對立激化し、續くプラーグ占領を以て獨英は事實上の決裂を見たが、この時より英國は急速に戰爭準備に乘り出した。從て對印度政策にも著しい轉換が行はれた。

△同年四月英政府は突如として新統治法の修正を英議會に提出した、會議派は之に反對し、印度兵のアデン派遣を抗議する反戰決議を行つた。

△更に八月英國が印度兵のエジプト、シンガポールへの派遣を强行するや、運用委員會は之に反對し會議派所屬議員に對して次期會議への出席拒否を指令した。

△一九三九年九月三日、歴史的な英本國の對獨宣戰布告の行はれた翌日、リンリスゴー總督は、「印度も交戰狀態に入つた」と宣言した。

△同時に英國は印度防衛緊急令、印度統治法修正法案、州政府の權限制限法案等を矢次早に公布して、國民運動の擡頭を防ぐと同時に、印度の協力を確保せんとした。

△かゝる英國の强請態度に反對したにも拘らず、印度はポーランドに同情し、九月十五日長文の聲明書を發してドイツのポーランド侵入を有罪なりと宣言した。

△と同時に總督の聲明が印度民衆の承諾なくして行はれたことを非難し、若し英國が自由と民主々義の爲に戰ふなら印度に先づ自由を與へよと叫んだ。

△然しこれに對し英國の態度は極めて冷淡で、十月十七日英國は白書を以て單に戰後印度の自治を考慮する、戰時行政會議を組織すると答へたのみであつた。

△ネールを指導者とする緊急戰時委員會が組織され、この白書に對する抗議として十月二十二日八州に於ける會議派內閣の卽時辭職を要請し、更に立法議會のボイコットを決議した。斯くして遂に八州の內閣は總辭職を決行したのである。

△同年十一月英國の苦境に鑑みリンリスゴーの第一次妥協提案となつたが、回印二大政黨の意見一致せずして彼の努力が水泡に歸するや、英國は州內閣の辭職に對しては一九三五年の統治法規定の緊急特權を以て全權を州知事に賦與する旨の正式聲明をなした。

△これに憤激した國民會議派は、運用委員會の決議に從つて私的不服從運動の開始を以て對抗することゝなり、國民會議派の態度漸く硬化した。

△一九四〇年一月十日總督は第二次妥協案を提示し「自治領の地位」を與へる用意ありと言明したが、完全獨立を主張する急進一派の反擊に遭つて之亦失敗に歸した。

△第一次世界大戰の欺瞞に再び乘るべからずと絕叫し、同年三月ラムガルに開かれた大會に於いて新議長マウラナ・アザットは左の如く印度の態度を明かにした。

△「……英國の今次大戰の目的は、全く帝國主義的目的のための戰であり、他の亞細亞及びアフリカ諸民族同樣印度民族をも犧牲として、その上に打立てられた英帝國の存續强化を計らんとするものである。かゝる情勢下に於て國民會議派は、このやうな搾取の繼續强化を意味する戰爭に直接たると間接たるを問はず參加することは出來ない、從つて印度軍隊を英帝國の爲に戰はしめることも、印度の人的、物的兩資源を戰爭目的のために使用することに對しても全面的に反對である。」

△これこそ印度民族の今次戰爭に對する一貫した根本態度であるといふことが出來る。而して彼等は「自由のための戰ひならば、まづ戰ふための自由を印度に與へよ」と叫び、獨立の公約が先決問題であるとしてゐるのである。

△四月十八日遂にワルダの運用委員會に於いて不服從運動を正式に決議するに至つた。

△急進左派を代表する前衛(フォワード)ブロックの黨首S・Cボースが先づ國民鬪爭週間を開始した。

△これよりさき(三月)アムリッツサルの責任者サー・マイケル・オスワイヤーがロンドンに暗殺され、ゼットランド印度事務相も狙撃され、正に世は急進派の天下となつた。

△英國の壓迫に窒息してゐた印度産業の資本家が、急進派ネールと合體したことは、急進派にとつて非常な强味であつた。

△一九四〇年八月八日政府はガンデイとジンナーの好意にすがつて第三次妥協案を提示したがこれ亦失敗に歸するや、俄然大彈壓を以て之に臨むことゝなつた。

△先づカクサール黨の檢擧、ボース、ネール等當時の急進派巨頭の逮捕を皮切りに、大旋風が渦巻いた。

△九月末までにボースを黨首とする前衛(フォワード)ブロックのみで一萬二千名が檢擧され、その他勞働組合、農民組合員を合すれば實に二萬二千五百名以上が投獄された。

△この大彈壓と産業資本家の裏切とにより急進派は全く凋落し、ガンデイは再び指導權を握つて單獨の非暴力運動を開始した。殊に言論の自由を鬪爭スローガンとして戰つた。だが第一回不服從運動の宣言者千五百名が殆ど全部檢擧されてしまつた。

△一九四一年一月には議長アザットも檢擧され、殘る著名な指導者は數名となつた。かくて最高指導者十一名、州大臣三十一名、中央議員二十二名、州議員三百九十八名、全印委員三百九十名が逮捕せられ、五萬の民衆が獄に投ぜられた。カクサル黨の蹶起とそれに對する彈壓が傳へられた。

△だがドイツの攻勢物凄く、地中海の危機切迫し、バルカンの形勢愈々重大化するに至つたため英國政府は又も妥協的態度に出るを餘儀なくされた。

△卽ち一九四一年七月二十一日、行政會議の改組擴充と、國防會議の創設とが發表された。(行政會議は新たに五省が開設され、合計十二省となつた。この中八省の長官は印度人が、四省は英人が占めたが、最も重要なる國防、財務、内務等は依然として英國が握つて居る。國防會議は各派代表三十名によつて構成されてゐる政府の輔佐機關であるが、これは飽くまで印度の戰時協力を確保しようとする英國の打算的讓歩である。)

△國民會議派も回教徒聯盟もヒンヅー・マハサバ黨もこれに對しては共同戰線を張つて不滿を表明し更にルーズヴェルト・チャーチルによる英米洋上會談の結果發表された所謂大西洋憲章に對しても痛烈なる反駁を行つてゐる點は注目すべきだ。

△打續く敗戰と日本の南進氣配に備へて、英國は更に宥和策の必要を感じ、一九四一年十二月に入つて突如不服從運動の檢擧者八千名中から五百名を釋放し、同四日アザット議長及びネール兩巨頭を出獄させた。正に大東亞戰爭勃發四日前であつた。

一〇、大東亞戰爭と印度

——クリップスの失敗とボンベイ大會——

△一九四一年十二月八日大日本皇國の對米英宣戰の布告とその赫々たる勝利は、印度に甚大なる影響を與へたこと勿論である。正に英國の印度統治史上に於ける最大の危機にして、印度獨立の絶好の機會到來である。

△武器を持たざる印度の革命は、印度自らの內緣的條件と、外緣的條件が共に完備した時に於てのみ始めて可能なる事は論者の齊しく指摘するところである。今や日獨伊樞軸陣營の英帝國に對する壓倒的勝利と、皇軍の印度洋制壓は、この一半の條件を完全に具備しつゝあるといふべきである。あとは自らの內燃的爆發を待つといふ狀況になつた。

△本年二月蔣介石は印度を訪問したが、何等の收獲も得なかつたやうだ、だが「蔣介石と印度」この命題こそ亞細亞の運命を卜するものとして我等の最大關心事であらねばならぬ。

△時恰かも二月十五日、印度最大の防衛陣地シンガポール陷落し、皇軍は緬甸へ、アンダマンへと破竹の如き進攻を續けた。

△二月十九日と二十二日の兩回に亘つてチャーチル內閣の改造が行はれ、勞働黨領袖スタッフォード・クリップスが國璽尙書に就任し、三月二十三日ニュー・デリーに到着した。

△彼は連日に亘つて各派首領と會談し、同二十九日「印度諸領袖との會談に關する宣言文草案」を發表したが、その內容は「戰爭終了後新憲法制定委員會を選出し、新印度聯邦を組織して自治領の地位を與へる」といふので、第一次大戰當時と全然同樣の僞瞞的術策であつた。會議派が之を拒否したことは當然である。

△クリップスは更に讓步し、修正提案を提出した。それは(一)戰後自治領賦與の保障(二)行政會議々員を一切印度人にする。(三)印度防衛の爲印度人を國防相に任命する。(四)印度人代表を英戰時內閣及び太平洋軍事會議に出席せしめる……といふ四ケ條であつた。

△だがこの修正案も三月十日の運用委員會によつて全會一致否決された。國民會議派の要求する所は

1、國防統轄權を移讓し、戰後無條件に英兵を撤退せよ。

2、印度人の自主的新國民政府の樹立を承認せよ。

3、英國の印度管理權を放棄せよ……の三ケ條であつた。

△クリップスは孤影悄然として印度を去つた。折柄印度洋上のわが海軍の猛攻擊により、英艦隊が印度洋上から姿を消滅せしめられたのと時を同うして、正に英帝國の悲劇的場面であつた。

△二月十六日シンガポール陷落の翌日、東條首相は帝國の印度に對する態度を闡明し「帝國は印度が印

度人の印度として本來の地位を回復すべきことを期待し、その愛國的努力に對しては敢て援助を惜まざる」旨を言明した。(五月二十八日再び聲明す)

△これに應へて、東西兩ボースは各々感激に滿ちた强烈なる聲明を發し、母國三億五千萬の民衆に神機到來、天兵來援を呼びかけ、實踐運動に乘り出すことゝなつた。

△東亞在住二百萬印度人の總意を結集して六月十五日盤谷のシラバコーン劇場に於て印度獨立大會を開催し、ラス・ビハリ・ボースを主班とする「印度獨立聯盟」が結成された。

△ボースは當日の大會に於て「ガンディ翁が過去二十年以上の長きに亘つて行ひ來つた偉大なる準備工作に燦然たる結實を與へる秋が來た」と獅子吼し、統一、忠誠、犧牲を誓つて二十三日閉會した。

△一方國内に於てはシンド地方の叛亂が傳へられ、デリー近郊にテロ事件の頻發を傳へた。

△再び指導權を握つたガンディは、ワルダにネール、アザットを召致し「英國人が全部印度より撤退することを條件に、回教徒聯盟と協力し、かつ會議派、回教徒聯盟及び王侯國代表者によつて構成さるべき印度國民獨立政府の指導者たる用意ある」旨の劃期的聲明を發した。

△而して六月十四日ワルダに開催せられた國民會議派運用委員會は、英國政治勢力の印度よりの撤退と印度人による臨時政府樹立を要求する長文の決議を採擇した。若し英國が右決議を拒否するならば會議派はガンディ指導下に全面的非暴力抗爭に出る旨の斷乎たる決意を表明した。

△八月七日世界注視裡に國民會議派全印委員會がボンベイに開催され、さきに運用委員會を通過した「對英卽時獨立要求」「新反英不服從運動」の具體的行動計畫案が付議された。劈頭アザット議長は英の在印政治、軍事勢力の卽時印度撤退を要求する決議を提出し、續いてガンディの大獅子吼があり、終つて前記決議案を俎上に前後五時間餘に亘る討議を重ねた後、ネールは全印委員會が同決議案を採擇すべき旨の動議を提出、會議派の決意を重ねて闡明すると共に、イギリス側のあらゆる策謀を排擊し目的完遂に邁進すべき旨を强調した。

△ボンベイ會議第二日の午後、國民會議派全印委員會は非暴力政策を通じ英國支配の印度撤退を要求する旨の決議案を三百六十票のうち反對僅か十三票といふ絶對多數をもつて可決した。直ちにこの決議案は印度政廳に通達された。修正案は一切拒否され、二萬の聽衆は歡呼を以て之に應へた。印度政廳は之に對し、「會議派の要求には絶對應じられぬ」旨の强硬聲明を發表した。

△翌九日早朝、一切の策謀と懷柔を完封された英國は遂に强硬彈壓を以て臨むことゝなり、疾風迅雷的にガンディ、ネール、アザット以下指導者二十名の寢込みを襲つて會議派委員の一齊大檢擧を敢行した。

△この不法彈壓に憤激せる印度民衆は、九日夜に至り全印委員會の新反英運動計畫を早くも實踐に移し、ボンベイその他主要都市でそれぞれ一大示威運動を開始した。各所で英官憲と衝突を惹起し、發

砲流血の慘事を惹き起し、印度全土は今や一大修羅場と化しつゝある。

△「今度の對英闘爭こそは余の生涯を通じて最大なものとならう。そのため余は斷食を斷行して遂に死に至るをも辭せず」とガンディは叫んでゐる。

△今度の闘爭を期してガンディは必ずや自らの生命を絶つであらう。ガンディは印度の魂の中に大きく生き、ガンディを乗り越えて起つ革命的印度青年の純血を培ふであらう。

△徒手空拳、武器を有せざる印度が果してどこまで戦ひ得るか、問題は多く今後に殘されてゐる。

△印度を救ふものは聖雄ガンディか？　聖雄日本か？　ともあれ三百年のアングロサクソン帝國崩壞の日まで續くであらう。亞細亞の心臟部印度の運命は、幾多の偉大なる先哲の靈に導かれつゝ、清純なる青年亞細亞の血と魂の光耀によつてのみ開かれるであらう。日本青年の尊い血が印度に流されなくてはならぬ。亞細亞の太陽がいまや照々たる光明を獨立の扉に投げはじめてゐるのだ。

△百五十年間に亘る印度獨立闘爭史の結論が終ひにこゝまで來たのである。

（昭和十七年八月十日現在）

青年亞細亞同盟

綱領

青年亞細亞同盟ハ亞細亞復興運動ノ尖兵トシテ生新果敢ナル青年運動ヲ通ジテ亞細亞再建、世界維新ノ聖業ニ挺身先驅センコトヲ志圖ス

構成

青年亞細亞同盟ハ勤皇殉忠ノ精神ヲ以テ亞細亞復興運動ニ挺身先驅セントスル日本青年運動指導者、及ビ之ト同志的繫リヲ持ツ亞細亞各國青年運動指導者トヲ以テ構成ス

機構

民族運動部——亞細亞各國ノ民族運動、青年運動ノ指導連絡ニ當ル

文化運動部——占領地區ノ民衆ニ對スル文化思想工作ヲ擔當ス

調査部——亞細亞各國ノ青年・民族運動ヲ中心トシテ政治、經濟、思想、文化、宗教等ノ調査研究ヲナス

訓練部――內地訓練ト外地訓練ニ分ツ、內地訓練ハ姉妹團體タル興南青年塾之ヲ擔當ス（興南青年塾ノ趣旨、構成、規約參照）

運動及事業

民族運動部

一、青年亞細亞寮ノ設立

青年亞細亞寮ヲ設立シ留日各國學生青年ト日本學生青年トノ交歡親善ヲ計ル

二、青年亞細亞民族親善大會ノ開催

全日本ヲ四地區ニ分チ西部福岡、中部大阪、東部東京、北部仙臺ノ各地ニ青年亞細亞民族親善大會ヲ開催シ、日本國民ト各國民トノ親善融和ヲ增進セシム

三、廣ク亞細亞各國ノ指導的青年同志ヲ結集シテ青年亞細亞會議ヲ主催ス

四、同盟委員ノ現地派遣

同盟委員ヲ現地ニ派遣シ各民族ノ青年指導者トノ連絡及ビ民族運動ノ指導ニ當ラシム

文化運動部

一、亞細亞各國ノ青年運動民族運動、宗教運動ニ關スル「パンフレット」ヲ作成シ之ヲ廣ク關係當局、國內ノ重要部問ニ配布ス

二、日本紹介ノ新聞及ビ小冊子ヲ占領地區民衆ニ配布シ、日本精神及ビ文化ヲ紹介ス

三、占領地區日本語學校兒童ニ學用品其他教育用資材ヲ送ル

四、占領地區兒童ノ學業作品ヲ集メテ日本各地ニ展覽會ヲ催ス

五、亞細亞民族會館ノ開設

六、「亞細亞民族運動年鑑」ノ發刊

外地訓練部

一、青年亞細亞訓練道場ノ設置

占領地ノ適當ナル要地（例ヘバ「ダバオ」「マニラ」昭南島等）ニ青年亞細亞訓練道場ヲ設置シ、日本青年及ビ各國青年運動ノ指導者ヲ收容シテ之ヲ訓練ス

二、青年亞細亞挺身隊ノ編成

皇軍ノ作戰ニ併行乃至ハ先行シテ之ニ側面的ニ協力スル目的ヲモツ挺身隊ヲ編成シ、軍ノ要求ニ應ジ直ニ出動セシム

三、青年亞細亞義勇軍ノ編成

皇軍ノ武力ヲ用ヒザルヲ有利トスル場合、乃至不可能トスル場合、該民族ニ義勇軍ヲ編成セシメ、

ソノ中核的指導者トシテ外地訓練ヲ受ケタル同志之ニ當ル

大東亞戰爭ニ對スル
青年亞細亞同盟宣言

長くも宣戰の大詔を拜す。開戰の大義茲に儼として天日の如し。何たる榮光、何たる感激ぞ。我が無敵陸海の精鋭既にハワイ、マニラ、シンガポールの命脈を扼し、英米亞細亞支配の根據正に風前の燈火たり、これ一億日本國民の歡喜感激たると共に、十億亞細亞民族の歡喜感激たらずんばあらず。

支那事變勃發するや、我等は直ち支那事變の本質的意義が亞細亞解放、世界維新の序戰なることを絶叫し、事變勃發の年たる昭和十二年十一月、赤坂三會堂に青年亞細亞會議を開催し、在日印度人始め滿洲、蒙古、支那、安南、泰、インドネシア、アフガン、トルコの青年同志と共に「青年亞細亞同盟」を結成して、全國に反英米運動を展開し、全亞細亞民族の解放獨立に心魂を傾倒し來れり。想へば五年間、同志血涙の惡戰と苦鬪の連續なりき。あゝ然るに今日、長くも英米倒滅の大詔渙發され、皇軍の戰果日に赫々たり。我等多年の宿志亦茲に始めて其の端緒を開くの神機に會せりと云ふべし。

謹みて惟るに、皇祖考の作述し給へる遠猷、萬邦をして各々其の處を得せしめ、萬民をして其の堵に安んぜしむる八紘爲宇の現實具體の要義は三世紀の長きに亘るアングロサクソンの亞細亞に對する侵略と搾取と壓政の鐵鎖を寸斷し、亞細亞人の亞細亞を確立することによりて、十億亞細亞民族に獨立と自尊の光榮を附與せしめ、大いに亞細亞の文運を

復し、道義仁愛の皇道に則る新なる世界秩序を建立するにあること言を俟たず。今次大詔の結言に拜する「祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セム」との御聖旨亦此處に在つて存すと拜承す。我等同志詔承必謹、策を新にし、想を練り、我等積年の宿望たる全亞細亞民族獨立解放の尖兵として決死挺身せむことを期し、茲に宣言す。

和十六年十二月十日

青年亞細亞同盟

933
315

申
日

昭和十七年八月三十日印刷
昭和十七年九月五日發行

非賣品

編輯兼發行者　東京市赤坂區一ッ木町一番地
青年亞細亞同盟内
近松久

印刷者　東京市麹町區平河町二丁目五番地
濱野英太郎

發行所　東京市赤坂區一ッ木町一番地
青年亞細亞同盟

青年亞細亞同盟委員（イロハ順）

石山正夫　戸野原史朗
近松久　大塚整司
吉田豊隆　田中正明
永露忠利　ウイ・スイ・リンガム
藏田馨　楠田直次
松本勝三郎　藤野正人
福島佐太郎　デス・バンデイ
北村榮一　北村理一
宮本善隆　白石司
新郷彦七　ビイ・デイ・グプタ
毛呂清輝　森川長孝

本部事務所　東京市赤坂區一ッ木町一番地
青年亞細亞同盟
電話赤坂(48)三七〇五
(四八八五)

933
325

終